公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

ハイライトよねやま

vol. 287
2024年2月13日
発行

1. 帰宅困難な男性を保護した米山学友に感謝状

秋田県内の 80 代男性を保護したとして、1 月 18 日、秋田臨港署からバングラデシュ出身の米山学友であるカビール・ムハムドゥルさん（1998-2000／秋田北ＲＣ）へ感謝状が贈られました。

感謝状を受け取るカビールさん（右）

この日から遡ること約 1 カ月前、秋田市内を運転していたカビールさんは、雪の積もる歩道を歩く薄着の男性が両手に買い物袋を持ったまま、うずくまるようにしている姿を発見したそうです。すぐに車を止め、「おじいさん、大丈夫ですか。自宅は分かりますか。困っているなら家まで送りますよ」と声をかけ、保護。しかし、自宅の住所を言えない状態だった男性のことを考え、数十分運転して最寄りの秋田臨港署まで連れて行きました。男性はその後、無事に家族と連絡が取れたそうです。

見知らぬ人に声を掛けるだけでも勇気が必要ですが、自らの車で警察署まで送り届けたカビールさんは今回の件について、「自分の行動によって男性の方が無事に帰宅できて、とても安堵しています。困っている人がいれば皆で協力し合い、より良い社会を目指せたらと思います」と述べました。

2. 米山学友から能登半島地震へ多額の義援金

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震に対し、多くの米山学友から義援金が届いています。

1975 年以前に日本へ留学していた米山学友を含むベトナム人グループの方々からは、合計 1,907,841 円という高額の義援金を送金いただきました。

義援金の募集に際し、米国在住のグェン・アン・トンさん（1973-74／姫路ＲＣ・1974-75/甲府北ＲＣ）のグループと、日本在住のファン・マン・カーさん（1974／仙台北ＲＣ）の 2 つのグループが取りまとめに動いてくださいました。

グェン・アン・トンさんからは、「米山学友を含むベトナムの元留学生たちの心がこもった義援金です。日本へ留学した経験を持つ私たちは、それぞれ異なるバックグラウンドを持ちますが、今回起きた地震で被災した方々を支援するために一致団結しています。私たちの思いは、被災した方々の生活を少しでも楽にし、復興への道のりを支援できると信じています。能登半島、頑張れ!!」という、力強いメッセージも届いています。

台湾米山学友会からは、地震発生後まもなくして支援の申し出があり、理事長の林志昇（リン シ ショウ）さん（1992-94／津ＲＣ）と、幹事長の張逸崑（ジャン イッ クン）さん（1997-98／杵築ＲＣ）が中心となり、学友に呼びかけを行いました。張さんの「真冬の地震発生に、過去の台湾での地震を思い出し、いてもたってもいられませんでした。今回のような能登半島の大きな被害に対し、義援金を送ることしかできないことがとてももどかしいです。被災された方々が一日でも早く元の生活に戻れることを願っています」という温かいメッセージとともに、同学友会から義援金として 100 万円が届きました。

お預かりした義援金は、当会からまとめて被災した地区へ送金する予定です。学友の皆さんの思いに改めて感謝申し上げます。

3. 寄付金速報 ― 2024 年は緩やかにスタート ―

前年同期比

＋ 3.0%

普 － 1.3%　特 ＋ 5.1%

1 月末までの寄付金は前年同期と比べて 3.0％増（普通寄付金:1.3％減、特別寄付金:5.1％増)、約 3,200 万円の増加となりました。クラブ会員の皆さまに厚く御礼申し上げます。例年 1 月は、普通寄付金（クラブで決定した金額×会員数分をお送りいただく定期寄付）の下期分の納入が主となります。2 月も引き続き、皆さまのご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

4. 「再会 in 関東」 フルバージョン 動画公開

米山記念奨学会では、公式 YouTube チャンネルにて、当事業に関する動画を随時公開しています。今回新たに、昨年 8 月に開催された米山学友による世界大会「再会 in 関東」のフルバージョン（約 21 分）を公開しました。過去最大の 1,000 人以上がつくばに集結した模様に密着しています。大いに盛り上がった 4 年ぶりの世界大会の様子を、ぜひご覧ください。ご希望があれば、動画ファイルをお送りすることも可能です。広報担当までご連絡ください。

5. 能登半島地震を経験した奨学生

第 2610 地区の現役奨学生である張若愚（チョウジャクグ）さん（2023-24／金沢東ＲＣ）は、中国語の発音から「タコちゃん」という愛称で呼ばれており、実家から持参したプーアル茶を振舞ったり、母国の文化について伝えたりと、クラブの方々と良い関係を築いているそうです。

クラブ例会で卓話する張さん

そんな張さんは、1 月 1 日の能登半島地震で非常に大きな揺れに遭遇。母国を離れ日本で経験する大地震にも関わらず、落ち着いていました。というのも、張さんが大きな地震に見舞われるのはこれが 3 度目。2008 年、2012 年に故郷・四川省での大地震を経験していました。特に、初めての地震は人生で最も衝撃的で、自分も周りもパニック状態の中、自らの身を守ることに必死だったそうです。能登地方で地震が発生した直後、これまでの経験を生かし安全の確保、電波の確認などを速やかに行いつつ、津波に備えるため山側へ避難したそうです。

母国と日本での経験を比較してみると、日本の建物の方が揺れは大きいが倒れにくい、防災教育が浸透している、津波への備えがあることを感じたそうです。

来日して初めて地震を経験する奨学生や学友たちに向けては、「油断や焦りは禁物です。余震・土砂崩れ・火災などの二次災害には特に気を付けてください。心理状態を安定させるために、マイナスな情報ばかりを得ないようにすることも、自分を守るために大切です。もし女性一人で避難する状態であれば、身の安全の確保には細心の注意を払ってほしいです」と、これまでの経験を基にアドバイスを送りました。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011　東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3F
Tel：03-3434-8681　Fax：03-3578-8281
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/
編集担当：長尾(ながお)